



# ワンコイン・スクール通信

NPO法人 アジア教育友好協会

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

電話 03(6426)0720 /FAX 03(6426)0721

## 武蔵村山第八小学校から広がる絆 2009年5月13日 プロジェクト発会式！

5月13日、6年生が全校に向けてプロジェクト参加を発信する「発会式」が行われました。同校では、6年生一人ひとりが図工の時間にスチール缶を使って「ワンコイン缶」やポスター等を手作りし、全校に呼びかけていきます。

まず、小野江校長先生からお話がありました。



「今のみんなの環境とポンタン小学校を結びつけて考えるのはとても難しいけれど、みんなはとっても幸せな環境にいます。ランドセルの中には文房具がそろっているし、おなか痛ければ保健室にいけばいい。でこのプロジェクトに参加することで、ポンタン小の友達の苦勞を知ってもらいたい。ただお金を寄付するだけでなく、無駄使いをしないようにした



AEFA理事長より  
ポンタンのお話を聞く

り、我慢したり、お手伝いをしたり、人に親切にしたり、みんながかいた汗の10円を、缶に入れてもらいたい。そして500円の重みを感じてもらいたいと思います。みんなの小さな積み重ねが、ポンタン小学校になります。」



心を結ぶ“パーシー”の糸

親善大使のみなさん

“プロジェクト親善大使”として武藤鉄也君、吉成香菜さん、伊藤航君、鈴木瑠依子さんの4人が任命され、AEFA理事長よりポンタン村のパーシー(ラオスの伝統的儀式)で結ばれた木綿の糸が、大使たちの手首に結ばれました。ポンタンと八小の子どもたちの心も、しっかりと結ばれました。

大使たちも「任命されて、やる気になった!」「がんばります」と、笑顔で口々に抱負を語りました。

この模様は、5月18日付の東京新聞にも掲載され、市内の中学校等でも取り組みが検討されています。



### 福井支部～丸岡中・丸岡南中から、発進！

坂井市立丸岡中学校伊藤校長先生、丸岡南中学校坪川校長先生、両校の生徒会執行役員13名(丸岡中(8)・丸岡南中(5))と担当の先生、福井支部三浦三博先生、AEFA理事長が集まって、「福井支部」が発足しました。丸岡中はAEFA理事長の出身校で、卒業後50年ぶりの訪問です。“地域との密着と社会貢献”が生徒会のテーマ。生徒のみなさんは「TVでこういう活動は知っていたが、子どもだからできないと思っていた。自分たちも参加できて学校が作れるなんて信じられない」「自分たちの先輩がこんな活動をしてすごい。積極的に活動したい!」「アジアのことをもっと知りたい」「アジアと同じように、自分たちも地域の人たちと一緒に活動したい」と、感想を述べていました。

「今までどちらかという内に向いていた生徒の視線が、外の世界に広がるいいきっかけになるといいと考えています。どちらからともなく、『文化祭で、合同で取り組んでみんか?』なんていう会話を交わしていました。」(坪川校長先生談)

### 横浜支部～家庭での取り組み～

鬼形まりさんはじめ、平成20年度橘幼稚園卒園委員のおかあさんたち8名が中心となって、「横浜支部」が発足!!

組織ではなく、各家庭での取り組みを中心に10円単位でお金を貯め、まずは100円を目標に設定、活動を開始しました。「お手伝い・がまん・思いやり・がんばり・内容を限定しない何でもカード」を作成、(ちょうど1ページ=100円分)子どもたちの色々な努力を記録します。「お手伝いにお駄賃は出さない主義の家もあるなど、各家庭でカードに記載する内容や金額は、かなり違いそうですが、まずはやってみましょう!」(鬼形さん談)



5/22 第一回ミーティング!



## ワンコイン・スクールプロジェクト 各校の取り組みを紹介！

### 「町田市立小山田小

### 竹炭募金」「福島県東館小 とうがらし交流はじまります！」

小山田小6年生は、毎年総合学習の時間に地元・小山田会のみなさんの協力で竹炭を手作り。翌年の「さくらまつり」で販売、売り上げをアジアの友だちのために寄付しています。品質が良いため、毎年あっという間に売切れてしまうほど。

今年の売り上げは、なんと「86,800円」にもなりました。

5/25、全校児童・AEFA理事長・専務理事が出席して、贈呈式が行われました。AEFA理事長から児童代表に感謝状が手渡され、アジアの子どもの生活をお話ししました。「みなさんは裏山の竹を切り、汗をかく作業をしてお金を寄付してくれました。竹炭作りの開始とともに、第1号フレンドシップ校としてアジアとの交流も始まり、今年で5年目です。この伝統を受け継いでください。」富田校長先生からも、「子どもたちが力を合わせた結晶が、このように目に見える形でアジアの学校に役立つことができうれしいです。」とのお言葉がありました。

5/11、AEFA理事長と郡山駅前中華料理店を営む小平一夫氏が東館小を訪問。東館小児童が、農家のみなさんの協力でラオスのとうがらしを育て、小平さんが買い取り、そのお金をポンタン小建設に送る「とうがらしプロジェクト」がいよいよはじまりました！夏休みには、小平さんのお店でとうがらし味のから〜い中華料理を食べるお楽しみもあります。

東館小のみなさんが集めて贈った文房具が、たくさんの人たちの協力を得てラオスに運ばれた様子や、現地で喜ばれている様子も報告。「わたしも、いろいろな人たちにささえられていて、育ったり、勉強したりしていることが分かりました」「学校を作ってあげるのではなく、作りたいと思っている人を手伝う。できないと思わないで、できると思ってがんばろうと思った。」

(4年生の感想より)



竹炭の売り上げ贈呈



さくらまつり



「珍満」小平社長

### 「仙台市立広瀬小

### “生きる”を学ぶ

「生きる」をテーマに、総合学習を進める広瀬小6年生。

5/18、AEFA理事長・スタッフから「ポンタン小着工式報告・日本の仲間武蔵村山第八小の取り組み紹介」と、「生きるうえで大切にしていること」のお話がありました。2度目の出前授業とあって、児童からも活発な質問や意見が出ました。

ラオスをキーワードにこの学習を通して、一人ひとりが世界を広げ、将来の目標や人生観を養い、“共に生きる”とはどういうことか、考えを深めていきます。

また、梅原克彦仙台市長にも表敬訪問し、プロジェクトの目的にご理解を頂き、趣旨にご賛同いただきました。



理事長はハーモニカを披露



「仙台発信のプロジェクトを温かく見守りたい」と梅原仙台市長(中央)

## ポンタン小の建設 進んでいます



基礎が完成、柱も立っています(2009年5月撮影)

コッスチャイ！(ありがとう) 子どもプロジェクトを応援している大人たち… その2

三浦先生は、平章小校長時代にベトナム・タンタイン小と交流。現在は坂井市生涯学習課の社会教育指導員を勤められ多忙な毎日を送る傍ら、AEFA顧問として福井支部を発足、子どもたちと共にプロジェクトを推進してくださっています。



福井支部 三浦三博先生